

中部環境計量士会だより

2012年7月15日発行

第11号



【写真】名古屋金山駅前広場で金環食を観察する人たち

5月21日に日本国内では25年振りとなる金環食が太平洋側一帯で広く見られました。当日は全般に曇り模様で観察が危ぶまれましたが、直前に厚い雲が切れ、きれいな金環食を観察することができました。

【主な項目】

1 2012年度総会報告

- 第1号議案 2011年度行事報告
- 第2号議案 2011年度収支決算報告
- 第3号議案 2012年度役員選出
- 第4号議案 2012年度行事計画
- 第5号議案 2012年度収支予算(案)

2 環境測定関係法令の動き

水質汚濁防止法の改正について

3 会員欄

4 掲示板

1 2012年度総会報告

中部環境計量士会の総会及び講演会が2012年5月19日(土)午後2時から大同特殊鋼(株)健保会館で開催され、20名の会員の出席(別に委任状提出者は34名)の下で開催され、5議案が可決されました。以下にそれらの内容を紹介します。

第1号議案 2011年度行事報告

(2011年度に実施した主な事業) (詳細は会誌「緑野」第50号に記載)

- (1) 総会 2011年5月28日(土) 大同特殊鋼(株)健保会館
- (2) 講演会 総会終了後、同会館にて開催
演題:「環境保全と繊維技術」
斉藤技術士事務所 斉藤 磯雄 氏
- (3) 見学会(懇親会) 2011年12月3日(土)
見学先 中部電力(株)武豊火力発電所内「メガソーラ たけとよ」ほか
懇親会 昼食を兼ねて開催
- (4) 勉強会(懇親会) 2012年2月4日(土) 大同特殊鋼(株)健保会館
勉強会
テーマ1 「原発から放出される放射性物質の大気拡散モデルと物質循環」
話題提供者: 吉田 信夫 氏(会員)
テーマ2 「低周波音に関する知見・技術の向上」
話題提供者: 日高 満 氏(会員)
テーマ3 「産業廃棄物の適正処理について」
話題提供者: 中島 国輔 氏(会員)
勉強会終了後、同会館にて懇親会を開催
- (5) 「中部環境計量士会だより」の発行(2回)
第9号 (2011年7月20日発行)
第10号 (2011年12月10日発行)
(会員あてにメールで送付するとともに、会のホームページに掲載)
- (6) 会誌「緑野」の発行
第50号 (2012年3月25日発行)
(印刷製本して、会員及び関係公共機関・団体と愛知、岐阜、三重の三県の環境測定分析協会会員に配布)

第2号議案 2011年度(平成23年度)収支決算報告

一部内容を再確認後、承認されました。
(会計監事から適正執行の報告がなされています。)

第3号議案 2012年度役員選出

会 長：阪野 二郎

副会長：佐野 教信

幹 事：石川 創、石原 好実、大井 民男、黒木 清篤、鈴木 全、田中 義身、
新谷 良英、船坂 録三、山田 寛人、由利 富士雄、吉田 信夫、渡邊
永策(新任)

会 計：近藤 浩子、杉浦 世紀子

会計監事：小林 良二

の各氏

第4号議案 2012年度行事計画

(実施する予定の主な事業)

(1) 講演会

(総会終了後、引き続き開催)

演 題：「東日本大震災から学ぶ危機管理」

- 現地視察報告&我々のすべき事 -

演 者：株式会社イズミテック代表取締役社長 大野 哲 氏

(一般社団法人愛知県環境測定分析協会理事 災害緊急時対応委員

株式会社愛研取締役社長 鎌田 務 氏同席)

(2) 見学会の開催

秋に(仮称)中部シンクロトロン光利用施設、あいち産業科学技術総合センターなどの見学を予定

(3) 勉強会及び懇親会の開催

会員3名程度の発表を予定

(4) 会誌等の発行

・「中部環境計量士会だより」年2回

・会誌「緑野」年1回

(5) その他

・会員名簿発行の要望があるが、予算不足のため簡易なコピーの形で会誌「緑野」
発送時に同封して配布する。

・新規会員を勧誘するため、環境計量士国家試験会場にてパンフレットを配布する。

・愛知、岐阜、三重の三県以外に在住又は勤務する環境計量士からの入会申し込み
者は特別会員とし、現段階では申し込み者が少ないので、内規に定める特別会員

を会員と同等の資格を有するもの、として対応する。

第5号議案 2012年度(平成24年度)収支予算(案)

一部内容を再確認後、承認されました。

(参考) 2011年度収支決算報告書及び2012年度収支予算(案)

2011年度 収支決算報告書

自 2011年 4月 1日
至 2012年 3月31日
単位:円

1. 収入の部

科目	予算	決算	増減	備考
会費	320,000	324,000	4,000	会費72名+過去の未納金
その他の収入	0	4,012	4,012	利息、寄附
前年度繰越	23,851	23,851	0	
合計	343,851	351,863	8,012	

2. 支出の部

科目	予算	決算	増減	備考
役員会費	15,000	10,260	-4,740	
総会費	10,000	12,137	2,137	
印刷費	140,000	180,620	40,620	緑野180冊、封筒500枚
通信費	20,000	15,620	-4,380	
勉強会費	40,000	47,200	7,200	
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	20,000	10,710	-9,290	インターネット関係等
HPリニューアル積立費	0	0	0	(積立金累計50,000円)
雑費	40,000	7,900	-32,100	文具
雑費(東北震災寄附金)	0	34,370	34,370	
予備費	38,851	0	-38,851	
次年度繰越	0	13,046	13,046	
合計	343,851	351,863	8,012	

2012年度 収支予算書(案)

自 2012年 4月 1日
至 2013年 3月31日
単位:円

1. 収入の部

科目	2011年度予算	2012年度予算	増減	備考
会費	320,000	320,000	0	4000円×80名
その他の収入	0	0	0	
前年度繰越	23,851	13,046	-10,805	
合計	343,851	333,046	-10,805	

2. 支出の部

科目	2011年度予算	2012年度予算	増減	備考
総会費	10,000	18,000	8,000	
役員会費	15,000	17,000	2,000	
印刷費	140,000	140,000	0	緑野180冊発行
通信費	20,000	25,000	5,000	緑野の送付
勉強会費	40,000	50,000	10,000	
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	20,000	12,000	-8,000	
HPリニューアル積立費	0	0	0	
原稿料	0	30,000	30,000	
雑費	40,000	10,000	-30,000	文具
予備費	38,851	11,046	-27,805	
合計	343,851	333,046	-10,805	

2 環境測定関係法令の動き

水質汚濁防止法の改正について

平成24年6月1日施行

1 対象施設の拡大

有害物質使用特定施設（水質汚濁防止法に規定する特定施設で有害物質を製造・使用・処理する施設であって、公共用水域への排出の有無を問わない。）及び有害物質貯蔵指定施設（有害物質を含む液状の物を貯蔵する施設）等の設置者は、施設の構造等について、都道府県知事等に事前に届け出なければならない。

2 構造等に関する基準遵守義務等

上記施設等の設置者は、有害物質による地下水の汚染の未然防止を図るため、構造等に関する基準を遵守しなければならない。

3 定期点検の義務の創設

上記施設等の設置者は、施設の構造・使用の方法等について、定期に点検し、その結果を記録・保存しなければならない。

3 会員欄

シンポジウム参加報告

小林 良二

国立環境研究所公開シンポジウム2012（大震災と環境再生・災害に立ち向かう環境研究の最前線） 参加報告

6月22日 京都で参加したので報告する。

講演は下記冊子をベースにするものである。

国立環境研究所：「災害環境研究の俯瞰」～災害からの復興と環境創造のために
（2012年4月版 34ページ）

国立環境研究所：「放射性物質の挙動からみた適正な廃棄物処理処分・技術資料第二版」
（平成24年3月26日 99+16ページ）

講演 1．廃棄物と放射能問題のこれまでとこれから～研究所での取り組みを中心に～
（大迫 政浩）

震災直後から、現場での問題把握、全国の専門家ネットワークを使って、技術的解決策を取りまとめ、被災地に発信し続け、科学的知見のないものは、自ら研究、データ提供。基準・指針に反映されている。

津波廃棄物への対応

直後問題になったことは、水産加工場からの廃棄物、腐敗、悪臭、衛生上の問題。消石灰散布による腐敗防止、埋設、海洋処分。海水を被った塩分を多く含む廃木材の焼却処理は

実験プラントテストより、適切な条件を確保すればダイオキシン類の生成抑制できることを示した。仮置き場の山積み廃棄物が微生物の作用で分解、発熱、火災の可能性があり、5 m 以上積まないこと、温度、CO モニタリング等現地指導。アスベスト含有廃棄物の分別方法指示。廃棄物の再生利用の技術的方策提示が重要。

放射能汚染廃棄物への対応

放出された放射性セシウムは広い地域に拡散、結果的には焼却、終末処理となります。このような廃棄物の処理過程における放射性セシウムの挙動解明に取り組んでいる。揮発性、溶解度、溶出性、土壌への吸着性など基本物性を理論的考察や実験的検討により明らかにした。長期的なシミュレーション、浸出水処理施設での実証実験によって、制御できることを示し、廃棄物等の放射能調査分析マニュアルを整備。国民の不安感を解消するためにも一層の研究努力と、分かりやすい説明、リスクコミュニケーションの手助けの役割を果たさなければならないと考えている。

講演 2 . 災害廃棄物および放射性物質汚染廃棄物の焼却処理に関する課題への対応

(倉持 秀敏)

海水被りの廃木材への対応

ダイオキシン問題を考え、実際の塩素分のレベル、塩素分の特徴を明確にするために、様々な形状の廃木材を集めて分析。中央値として0.167重量%(0.005~3.63重量%)であり、都市ごみの塩素分0.4~0.8%と比較すると低い。海水と接する表面積の大きい合板と海水が浸み込みやすい軽い流木、樹皮を有する倒木は塩素分が高くなり、表面積の小さい柱材は低いことが分かった。更に焼却試験の結果から通常のごみ焼却と同等レベル以下であり、焼却温度の管理をして、排ガス管理をすれば、安全に焼却処理できることを確認した。

放射生物質汚染廃棄物への対応

震災から数ヵ月後に、都市ごみや水処理汚泥を焼却した時に発生する灰に原発事故由来の放射性セシウムが濃縮されていることが明らかになった。そこでこのセシウムの特性を調べ、飛灰(排ガスに含まれるばいじん)は溶出性が大きく、塩化セシウムの形であり、主灰(焼却炉に残る灰)は溶出性が小さく、アルミノシリカセシウムであることが分かった。今後もこのような科学的知見を提供することで、適正処理を支援する。

講演 3 . 放射性物質の環境中の挙動を追う~多媒体(マルチメディア)モデルの開発と応用~

(鈴木 規之)

事故により大気と海に放射性物質が排出した。大気中に排出されたものは風に乗って輸され、地表に沈着して河川への流出、また河川の流れに乗った輸送などを一体として推定する多媒体モデルの手法によって解明し、今後の放射性物質の環境挙動や対策効果の予測を

可能にすることを旨とする。

多媒体モデルとは

国立環境研究所で開発された G - CIEMS という多媒体モデルを大気輸送モデルと連結したモデルの開発を進めている。

シミュレーションの概要

福島県の太平洋沿岸、阿武隈川流域と関東北部、利根川水系まで含めた計算を実施。

考察と今後の展望

2011.3.23 時点での土壌、河川水中セシウム 137 の濃度予想分布は、福島県太平洋側の土壌、河川に高い濃度地域が認められ、更に、より離れたいくつかの地域で低い汚染が認められる。これは大気輸送の推定、観測の放射線量の分布と類似している。今後将来予測に役立つように研究する。

講演 4 . 宮城県内津波被災地における長期的環境モニタリング (中山 詳嗣)

海底汚泥の打ち上げ、被災地域に貯蔵されていた重油や化学物質、火災の発生等により多種多様な化学物質が生活環境を汚染した可能性がある。緊急時対応として、環境省、宮城県と協力し気仙沼市、南三陸町、石巻市の避難所周辺で健康影響調査をし、屋内粉塵から適切マスクの選定を提言。避難所の清掃効果を定量的に評価。屋外粉塵について金属濃度を報告。復興過程では、震災廃棄物の仮置き場近くの高校を調査地点に追加室内外空気を調査している。集めたサンプルは化学分析、バイオアッセイで評価。これらデータから健康被害の可能性ある化学物質を推定し、提言していく。

講演 5 . 環境にやさしく情勢変化にも強い都市に向けて～資源の有効利用の視点から～

(藤井 実)

リサイクルやエネルギーの有効利用によって資源消費を上手に制御し、付随する環境負荷を削減し、環境にやさしく、情勢変化にも強い都市構築について考える。

目指すシステム構築に3つの視点取り入れることが有効。既存施設の利用、但しあるものはなんでも使うのではなく、その性能を見極めて、効率の良いものを使う。機能の多様性、多機能があると情勢の変化にも対応できる、但し単に雑多な組み合わせではなく、長所、短所のバランスがとれていること。必要性の高いリサイクル。高い需要があり、システムが働く確立を上げること。

ポスターセッション

- 1) 東日本大震災からの復旧・復興への取組
- 2) 都市ごみ焼却灰や土壌などへ集まった放射性セシウムの水への溶出しやすさ
- 3) 津波堆積物の化学性状把握に向けた取組～化学分析調査と汚染可能性分類手法の検討
- 4) 化学物質で汚染された津波堆積物の早期特定に向けて～津波シミュレーションの活用

と課題～

- 5) 津波被災地の化学物質汚染をバイオアッセイで検証する～化学分析と生体異物センサーの運用～
- 6) 震災後の東日本沿岸域の海水と二枚貝中の放射性物質～環境試料タイムカプセルを開いてみると～
- 7) 湿地生態系から見た流域の環境放射性物質汚染
- 8) 「沈黙の春」から50年 レイチェル・カーソンの環境思想と放射能汚染
- 9) 東日本大震災後のエコチル調査の進捗状況
- 10) これからの日本の電力供給の姿とは～短期的・中長期的シナリオの定量的検討～
- 11) 省電力型研究環境の構築に向けて～低炭素社会実現に向けた国立環境研究所の試み
- 12) 地球環境研究センターで展開される温室効果ガス観測
- 13) 地球温暖化で何がおこるか：将来環境予測の最前線
- 14) 北極高緯度土壌層における近未来温暖化影響予想の高精度化に向けた観測及びモデル開発研究～極地アラスカと温暖化（3年間の現地調査から分かったこと）～
- 15) 生物多様性の広域評価と効果的な保全に向けた対応策の検討
- 16) 長江流域圏から東シナ海への汚濁負荷量の再現

以上

（私見：盛況、質疑活発でした。）

会員異動

（2012年3月以降分）

《退会者》（1名）

富田 喜久雄 氏

4 掲示板

見学会について

10月下旬に中部シンクロトン光利用施設やあいち産業科学技術総合センターなどの見学会を予定しています。多数のご参加をお待ちしています。詳細は決まり次第ご連絡いたします。

会誌等への投稿について

会誌「緑野」、「たより」への投稿やご意見・要望等をお寄せください。会員相互の連絡や意見交換にもご利用いただけます。